

令和7年6月17日  
東北運輸局長定例記者会見 資料1



# 「インバウンド消費動向調査」から見た 2024年 1年間の東北の現状

観光庁による「インバウンド消費動向調査」において2024年1年間の消費動向が発表されたことに伴い、東北運輸局では、東北を訪れた外国人訪日客の消費動向等を取りまとめました。

<問合せ先>  
東北運輸局観光部 国際観光課 中島・津田  
TEL 022-7910-7510

# 「インバウンド消費動向調査」の概要

## インバウンド消費動向調査とは

- 観光庁が2010年(平成22年)4-6月期より四半期毎に実施している調査(旧「訪日外国人消費動向調査」)。訪日外国人旅行者の消費動向を明らかにし、外国人観光客誘致に関する施策の企画立案、評価等のための基礎資料を得ることを目的としたもの。
- 目的に応じ、「全国調査」、「地域調査」、「クルーズ調査」の3種類を実施。
- 回答者の国籍・地域や訪問地名、泊数、費目別支出など訪日旅行に関する項目を全国29空海港※で聞き取り(調査の種類によって実施場所は一部異なる)。

### ※《対象空海港》

新千歳空港、函館空港、青森空港、仙台空港、茨城空港、羽田空港、成田空港、静岡空港、中部空港、富山空港、小松空港、関西空港、米子空港、岡山空港、広島空港、高松空港、福岡空港、佐賀空港、宮崎空港、鹿児島空港、那覇空港、境港、関門港、博多港、厳原港、長崎港、那覇港、平良港、石垣港

The image shows a detailed survey form for inbound consumption trends. It includes sections for:
 

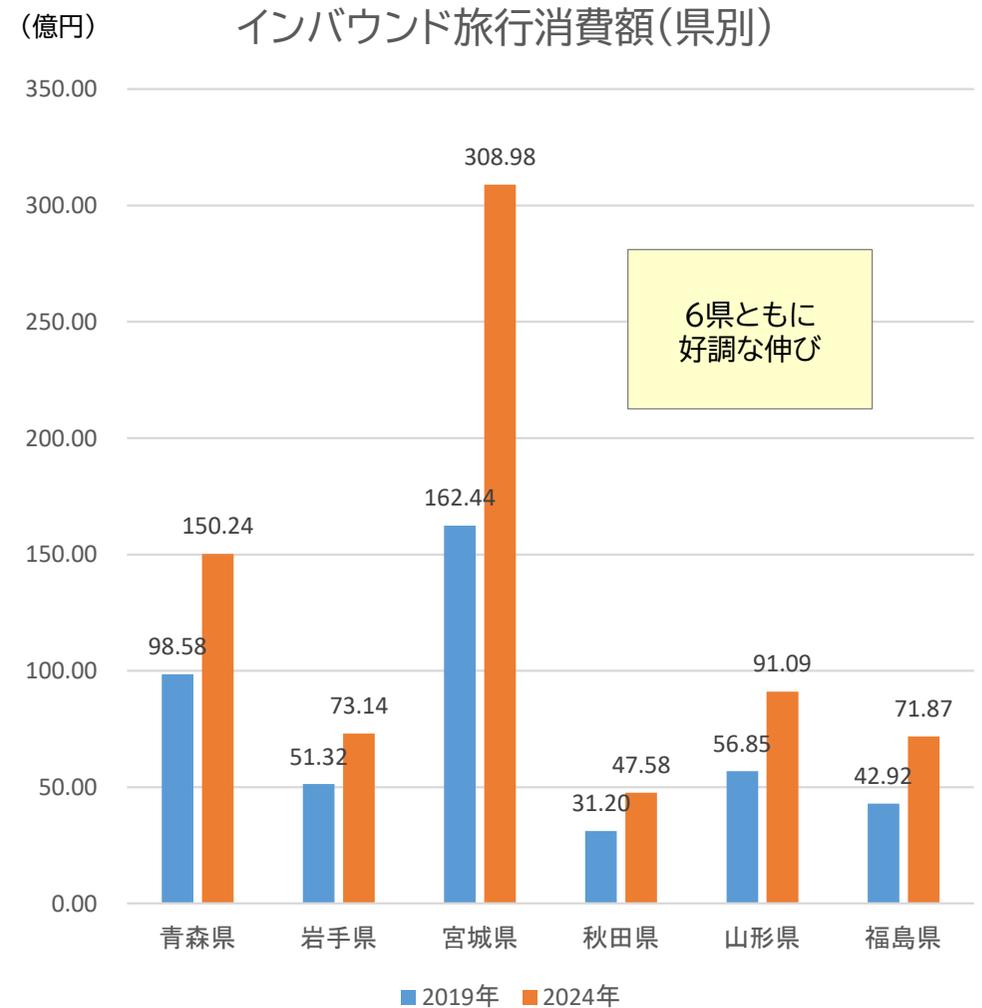
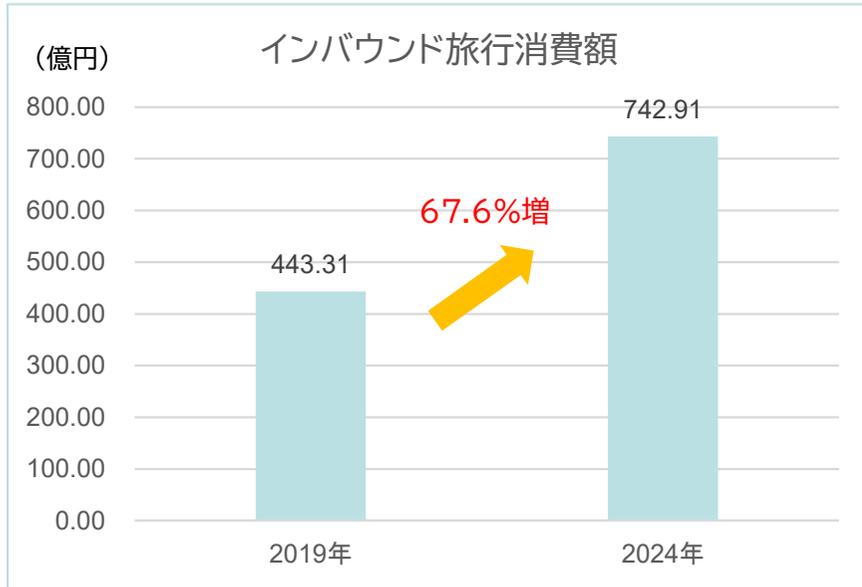
- Traveler information (A1: Nationality, A2: Age, A3: Gender).
- Travel details (B1: Travel method, B2: Travel period, B3: Travel purpose).
- Spending habits (C1: Daily expenses, C2: Accommodation, C3: Transportation, C4: Entertainment, C5: Shopping, C6: Dining, C7: Other).
- Traveler's current status in Japan (D1: Duration of stay, D2: Number of visits, D3: Reason for visit).
- Spending habits by item (E1: Transportation, E2: Accommodation, E3: Transportation, E4: Entertainment, E5: Shopping, E6: Dining, E7: Other).
- Spending habits by item (F1: Transportation, F2: Accommodation, F3: Transportation, F4: Entertainment, F5: Shopping, F6: Dining, F7: Other).



この調査から東北管内を訪れた外国人の動向を抽出、次頁以降にまとめた。

# 東北における訪日外国人の旅行消費額(全目的)

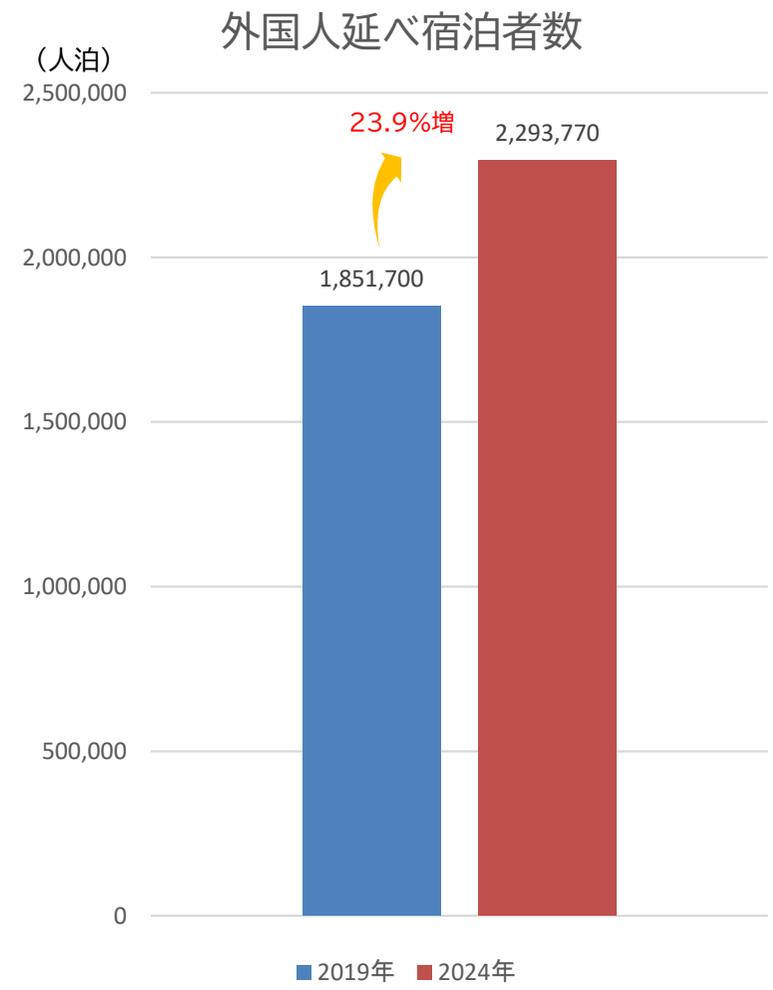
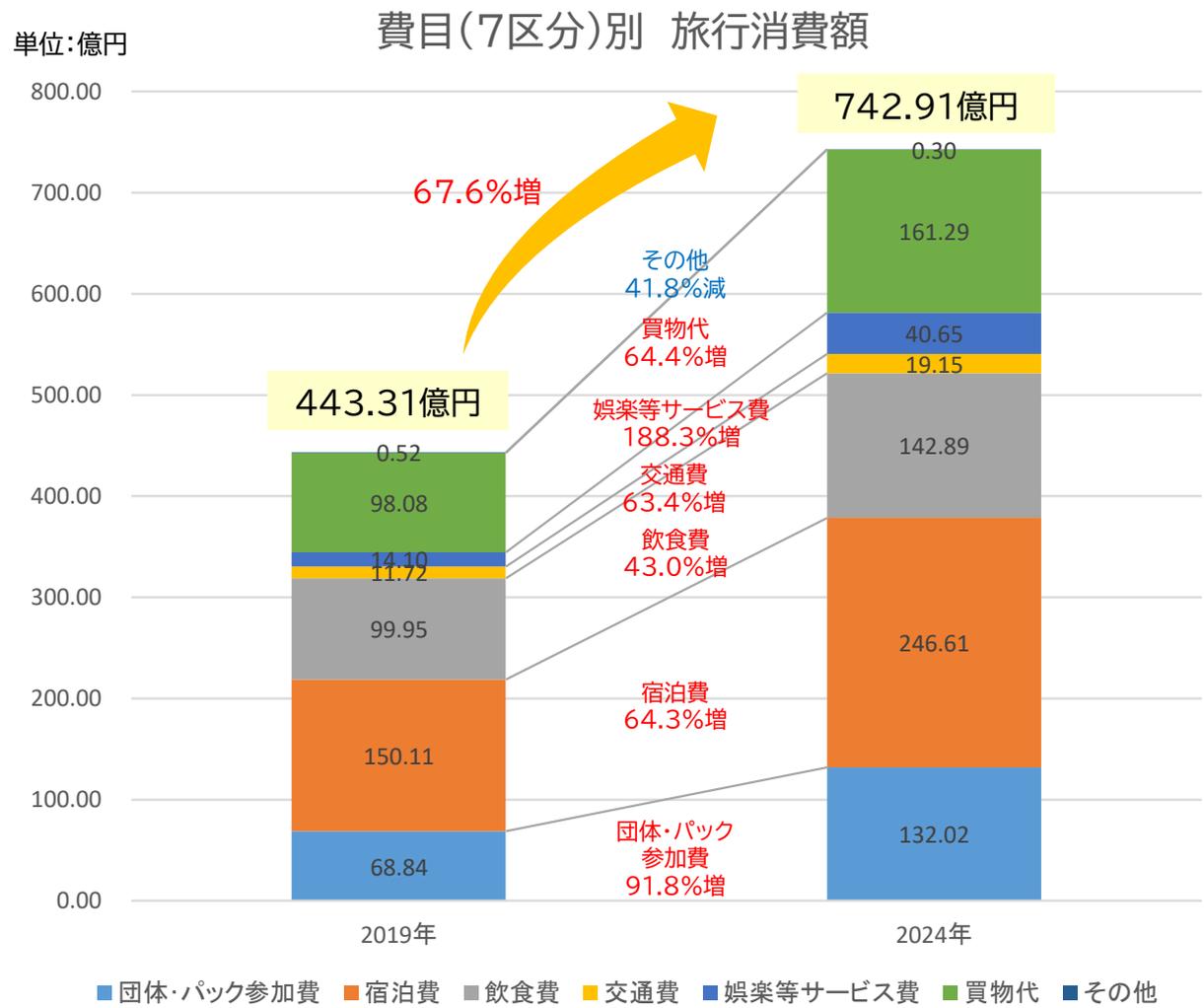
- 東北における、2024年訪日外国人旅行消費額は742.9億円。
- 2019年と比較すると67.6%増と、宿泊者数増加率に比べ大幅な伸びをみせている。



※本グラフの旅行消費額については、都道府県間交通費及び訪問地不明の支出を含まない。  
 (出典:観光庁「インバウンド消費動向調査」(参考)都道府県別集計・「宿泊旅行統計調査」)

# 東北における費目別旅行消費額の傾向(全目的)

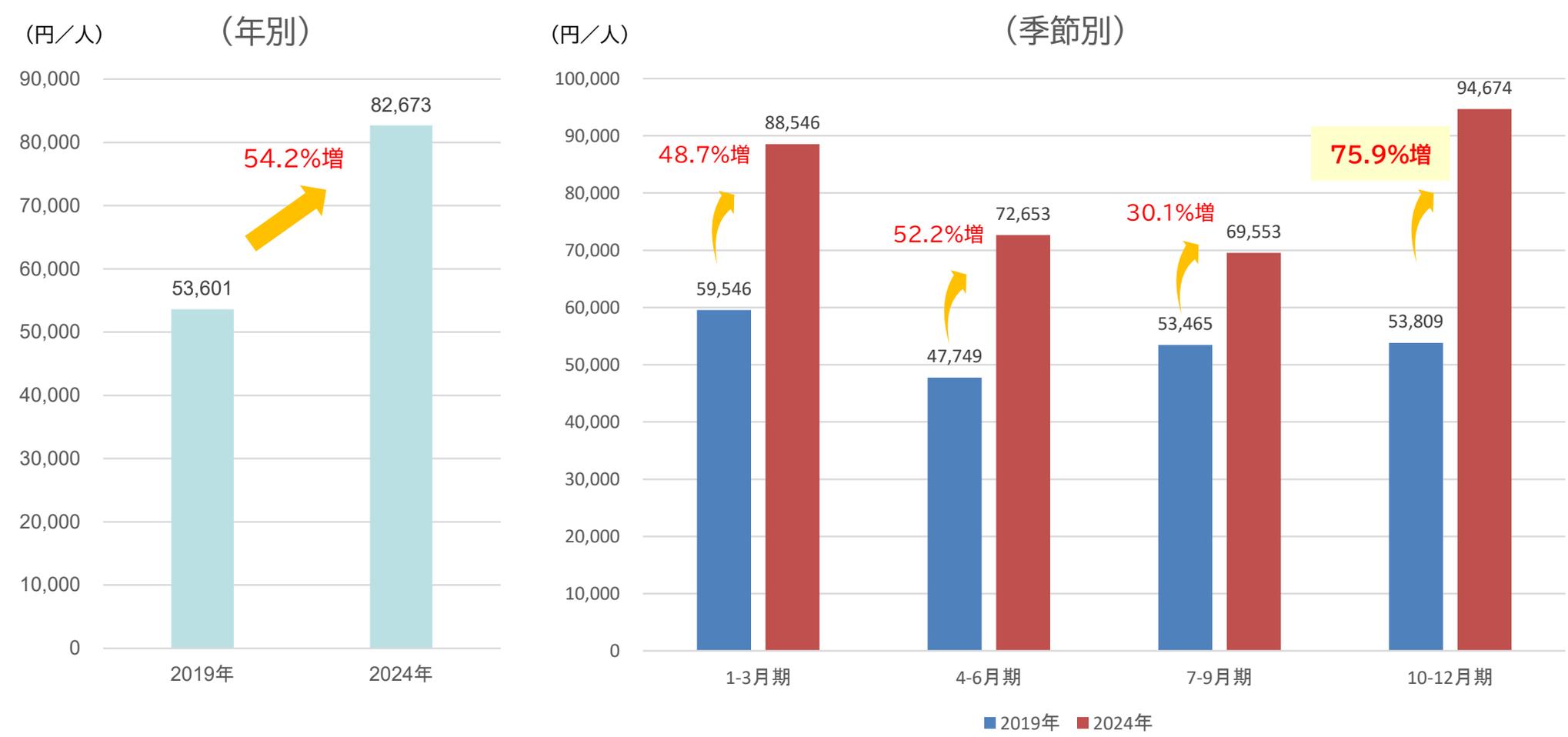
■ 2019年と比較すると、ほとんどの費目において好調な伸び。  
 ■ 宿泊者数との比例関係は見られないことから、単価の高騰のほか、旅行者自身がより質の高い商品やサービスを求めていることがうかがえる。



※本グラフの旅行消費額については、都道府県間交通費及び訪問地不明の支出を含まない。  
 (出典:観光庁「インバウンド消費動向調査」(参考)都道府県別集計・「宿泊旅行統計調査」)

# 1人1回当たり旅行消費単価(観光・レジャー目的)

- 2024年の東北における、観光・レジャーを目的とした訪日外国人1人1回当たりの平均旅行消費単価は82,673円。
- どの時期においても伸び率は好調と言えるが、紅葉やウィンタースポーツ等、日本らしい季節のコンテンツを求める訪日客が多くなったため、特に秋～冬期間の旅行消費単価が大きい傾向にある。

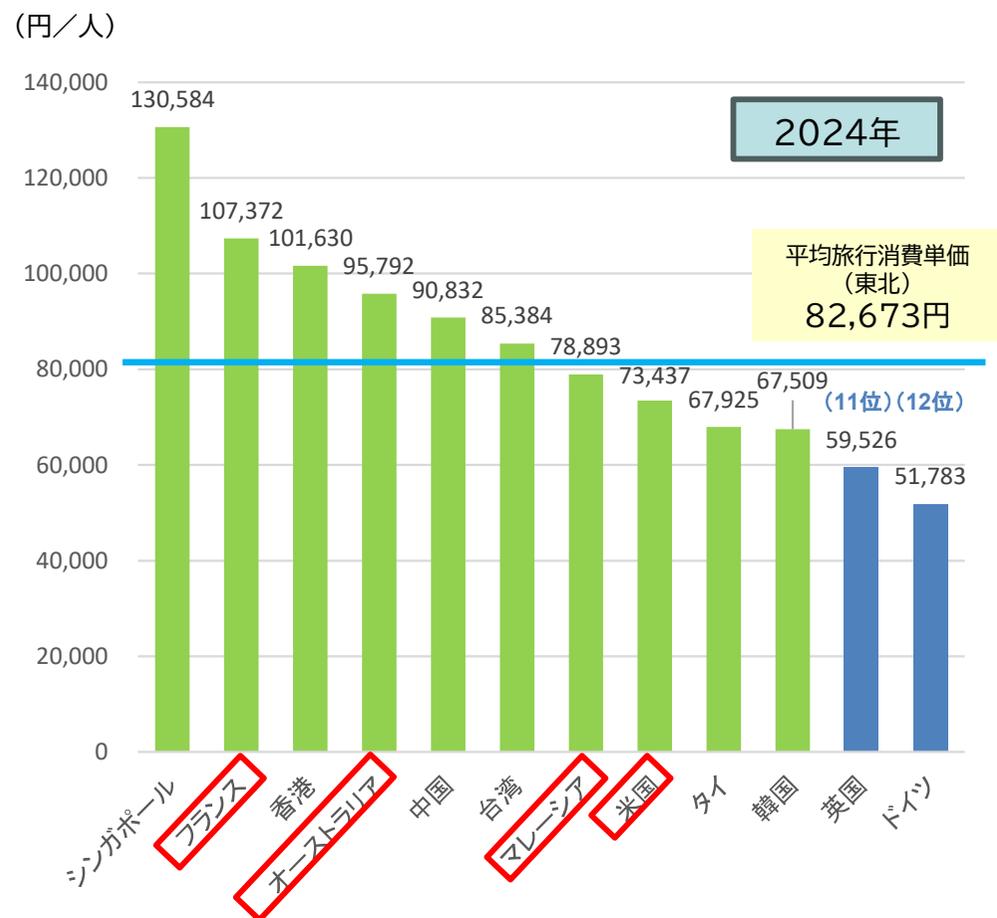
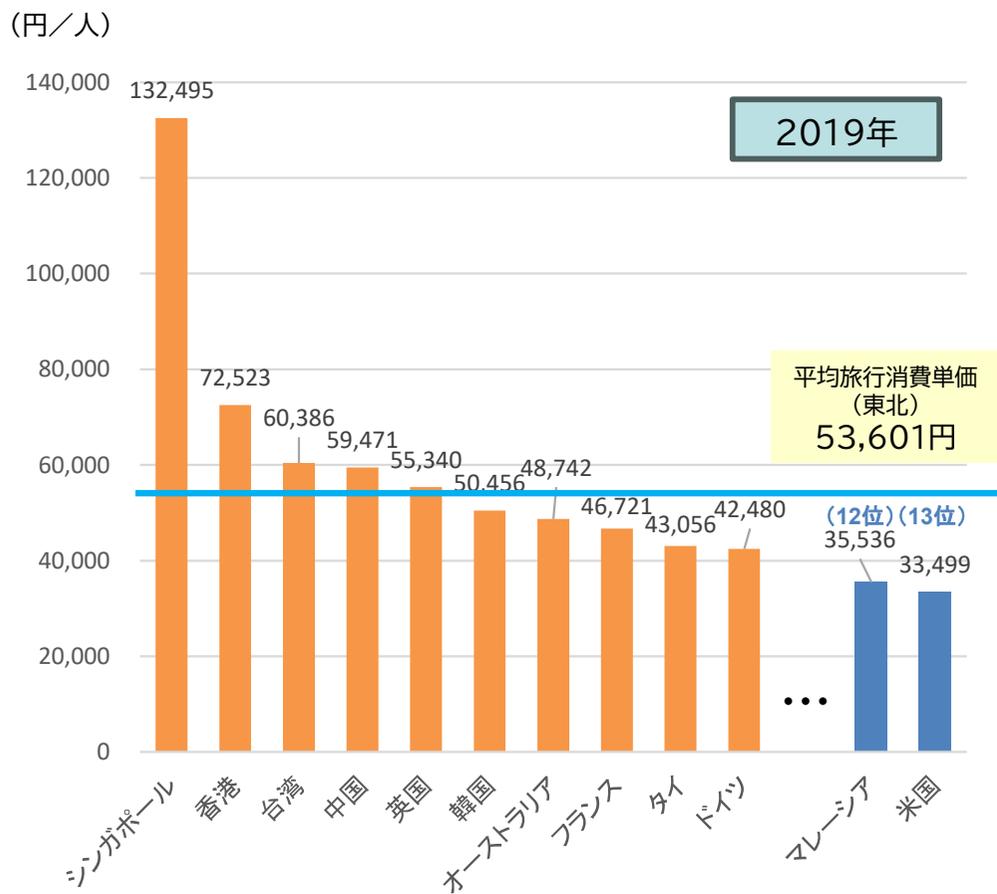


※本グラフにおける「旅行消費単価」は「旅行中支出」の平均値であり、パッケージツアー参加費に含まれる日本国内支出や日本の航空会社及び船舶会社に支払われる国際旅客運賃を含まない。

(出典:観光庁「インバウンド消費動向調査」)

# 東北における国籍・地域別旅行消費単価の順位(観光・レジャー目的)

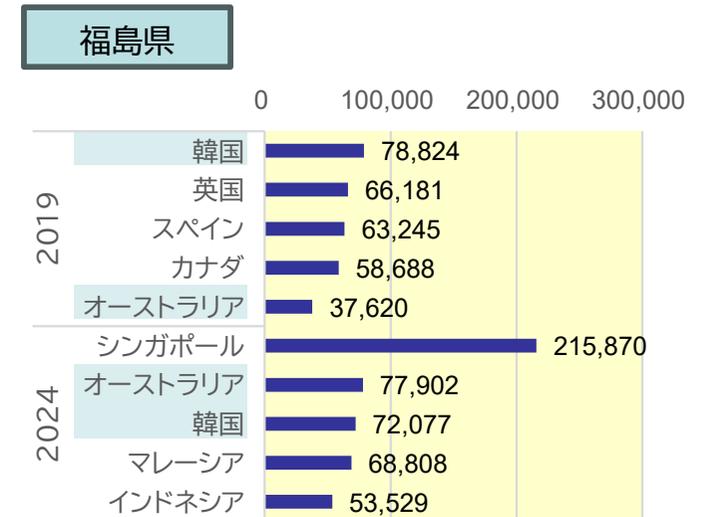
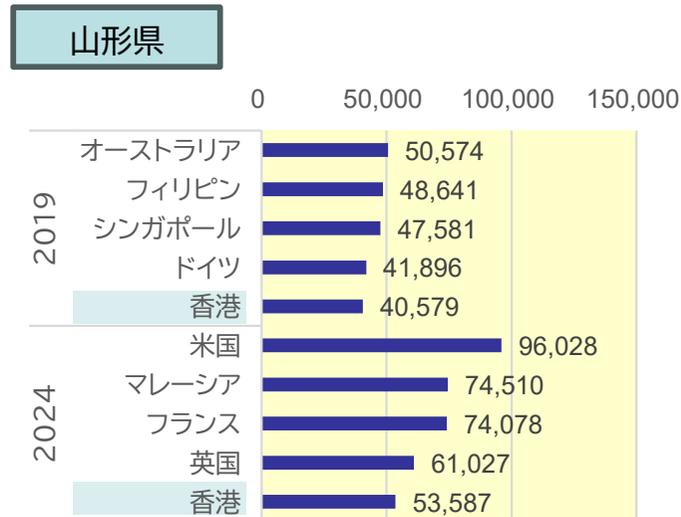
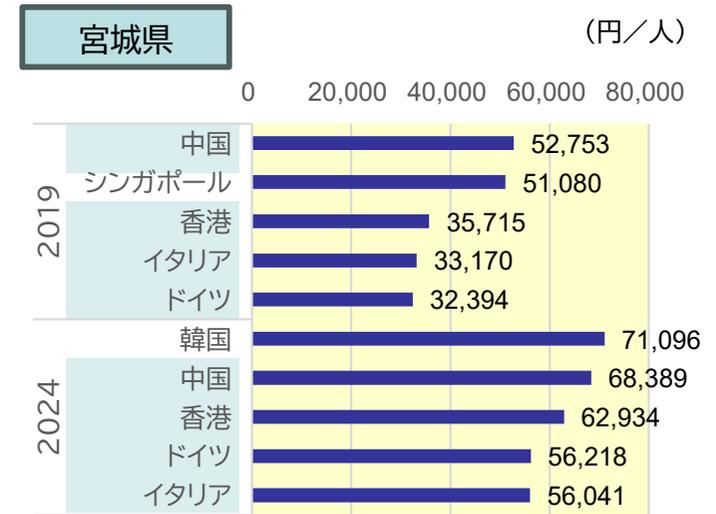
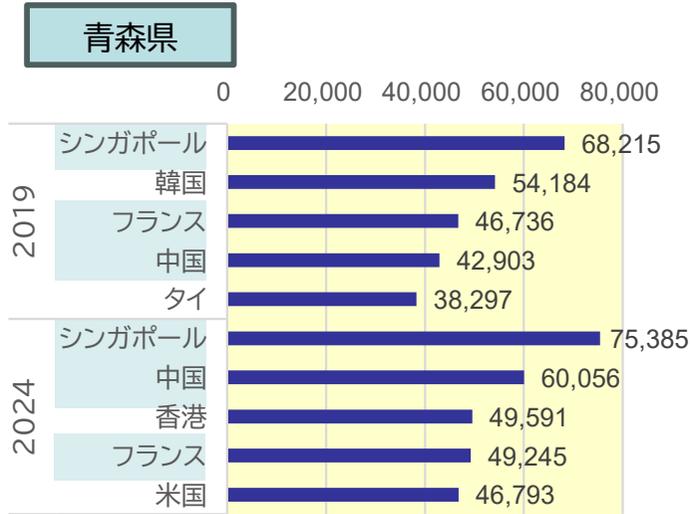
■東北における1人1回当たりの旅行消費単価を上位10箇所で見たものである。  
 ■2019年と比較すると、国籍・地域に若干の入れ替わりが見られ、特に、フランス、オーストラリア、マレーシア、米国の伸びが好調である。



※本グラフにおける「旅行消費単価」は「旅行中支出」の平均値であり、パッケージツアー参加費に含まれる日本国内支出や日本の航空会社及び船舶会社に支払われる国際旅客運賃を含まない。  
 ※回答数が小さい国籍・地域もあるため、取り扱いに留意されたい。

(出典:観光庁「インバウンド消費動向調査」)

# 【参考】東北各県における国籍・地域別旅行消費単価(観光・レジャー目的)



※本グラフにおける「旅行消費単価」は「旅行中支出」の平均値であり、パッケージツアー参加費に含まれる日本国内支出や日本の航空会社及び船舶会社に支払われる国際旅客運賃を含まない。  
 ※回答数が小さい国籍・地域もあるため、取り扱いに留意されたい。

(出典:観光庁「インバウンド消費動向調査」)